

JAみやぎ仙南 こだわり米 栽培マニュアル



目次

- ①こだわり米栽培暦……………1～2ページ
- ②種子消毒剤のじょうずな使い方……………3～4ページ
- ③こだわり米の取組み……………5ページ
- ④こだわり米栽培基準……………6～10ページ
- ⑤除草剤の使用時期・主な水田雑草……………11～14ページ
- ⑥トレーサビリティの取組み……………15～17ページ
- ⑦GAPの取組み……………18～20ページ
- ⑧衛生管理手順とその取組み(チェック項目) ……21～23ページ
- ⑨こだわり米出荷の留意点……………24ページ
- ⑩こだわり米栽培中止報告書……………27ページ


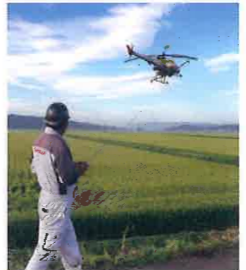
JAみやぎ仙南こだわり米生産組合協議会
JAみやぎ仙南水稻部会
みやぎ仙南農業協同組合

1.こだわり米栽培は、マニュアルに記載されている資材（農薬・肥料等）のみの使用となります。

2.対象品種 ひとめぼれ・つや姫 ※2品種のみ

3.病虫害多発の恐れがある場合は無断で対処せず、農家組合委員及びJAに連絡して下さい。

4.こだわり米には畦畔除草剤は使用できません。（畦畔も圃場の一部です。）

月	1~2月		3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11~12月			
	旬		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
主 な 作 業	◎床土準備 培土の窒素成分 自家採土 または 購入培土 ↓ 化学N成分 最大使用量 50g/10a		タフブロック 使用上の注意 ◎種子消毒時の 水温10℃以上 ◎催芽時の適温 28℃~30℃ ◎化学成分薬剤 の使用禁止			①種子準備 (塩水選:比重1.13) ②浸種(水温10℃を確保し積算温度120℃を目安にし、水は2日おきに交換する) ③種子消毒:タフブロック200倍液24時間:水温10℃確保。 ④催芽[28℃~30℃] (催芽時処理が効果的です。) ⑤播種(4月15日以降) ⑥立枯れ・カビ防除 ⑦出芽[28℃~30℃] (山間高冷地では育苗器を使用しましょう。) ◎春耕起 ◎基肥散布 ◎塩化カリ散布			ス生 ステージ育 水深 水面 代かき 落水【ガス抜き】			活着 分げつ期 最高分げつ期 減数分裂期 中干し 間断かん水 低温時深水 浅水 飽水管理 落水(出穂後25~30日)			幼穂形成期 出穂期 登熟期 成熟期			1.収穫期の目安 ①籾の90%が黄色になり、穂軸が先端から、3分の1程度黄変した時が適期の始めです。 ②下記は出穂後の積算気温と日数からみた刈取り適期の目安です。			2.乾燥 ①乾燥機は、努めて低温乾燥としましょう。 ②水分は14.5%~15.0%が目標です。 3.調製 ライスグレーダーの網目は1.90mmを使用し、整粒歩合80%以上の1等米に仕上げましょう。 ◎秋耕 良質堆肥及び土壌改良資材の散布。									
	◎土づくり ・土壌改良資材、良質堆肥の施用 		◎化学成分薬剤の使用禁止			<table border="1"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>水づけ 積算温度 (目安)</th> <th>水づけ 日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひとめぼれ</td> <td>120℃</td> <td>12日</td> </tr> <tr> <td>つや姫</td> <td>120℃</td> <td>12日</td> </tr> </tbody> </table>			品種名	水づけ 積算温度 (目安)	水づけ 日数	ひとめぼれ	120℃	12日	つや姫	120℃	12日	①代かき ②箱処理剤の施用 (葉いもち・害虫同時防除) ③田植え(5月15~25日) 植付け本数:3~4本 ④除草剤散布			①畦畔雑草の草刈り ②周辺の環境整備 ◎健全な根の確保、登熟歩合・食味向上を目指す			①溝切り ②カメムシ防除 畦畔雑草の草刈り(出穂10日前まで:遅くなるとカメムシを本田に追いやり被害拡大) ◎幼穂形成追肥			カメムシ防除 			・落水時期 早期の落水は品質の低下を招きます。 出穂後25~30日を目安としましょう。
品種名	水づけ 積算温度 (目安)	水づけ 日数																												
ひとめぼれ	120℃	12日																												
つや姫	120℃	12日																												

1.土づくりの実践。

- 土づくり肥料または良質堆肥を施用する。
- 2.農薬を軽減するので、薬剤の効果が発揮される処理を行うとともに、耕種的防除を実践する。
- 3.窒素の多施用はいもち病等の発生原因になるので、過剰な施肥・腐熟していない堆肥は施用しない。
- 4.晩期栽培(ひとめぼれ)の励行。
(晩期栽培の栽植密度は株間16cm(70株/坪)以上を推奨します。)
●障害不稔や高温登熟による品質低下を回避するため、晩期栽培を実施する。
- 5.適正な穂数と籾数を確保するため、1株の栽植本数は3~4本とする。
- 6.カメムシ類の防除。
●出穂10日前までの畦畔等の除草と併せ、農薬による防除を必ず1回実施する。

1.種子

種子は指定種子生産圃産種子を用い、100%更新して下さい。また、比重選(塩水選)を必ず行う事。

2.播種量と育苗日数の目安(4月15日頃播種)

種類	乾籾重(/箱)	育苗日数	苗の草丈	葉数
稚苗	140g	20~25日	10~15cm	2.1~2.5
中苗	100g	25~30日	13~18cm	3.5~4.0

◆晩期栽培では育苗期間が高温で徒長しやすいので、播種量を少なめにし、育苗期間も短くする。

健
苗
育
成

3.無加温出芽の留意点

- ◎播種時のかん水は適正に実施し、ベタ張り資材で密閉する。
- ◎出芽までのハウス温度は30℃以内とし、第2葉が抽出したら除覆する。

5.プール育苗の留意点

- ◎1回目のかん水は床土の高さまでとし、ハウスは夜間も開放状態にする。
- ◎プール内の水温が高すぎる場合は冷たい水と入れ替える。

4.ハウス内の温度管理

- ◎5月の育苗は高温障害が発生しやすいので、朝7時頃までには換気作業を完了させ、ハウス内の日中の温度は20℃以下になるように管理する。

6.育苗箱処理剤使用の留意点

- ◎処理時の苗は乾いていること。
- ◎施用量が少ない場合、効果が著しく低下することがあるので、所定量を厳守する。
- ◎処理後は少量のかん水をし、土に薬剤を定着させる。